

分野

にぎわい・共創

目標



多様な主体がつながって、にぎわいにあふれるみんなが好きなまちを実現する



成果指標	目標値
① にぎわい・共創分野の満足度	中間年度の数値を上回る
② にぎわい・共創分野のまちづくりの推進度	中間年度の数値を上回る

※調査未実施のため現状値なし。中間年度の数値とは、令和7年度に実施する市民意識調査の値。

関連する主な計画

関連する各部門の計画等と整合性を図り、総合的な観点から、この分野を推進します。

企業立地促進基本方針	男女共同参画推進計画
シティセールス戦略	



市民・地域・行政と協働で取り組む共創のまちづくりとして、期待される役割

市 民	● 区・自治会に加入し、その活動に参加するほか、さまざまな地域イベント等に参加する。また、市内で買い物をするなど市内中小企業育成に協力するとともに、地域の魅力をSNS^{*1}等で発信する。 ● 男女共同参画をはじめ、多様性を尊重する社会について理解を深めるとともに、家庭における男女共同参画の実践や地域における多様性の尊重に努める。
地 域	● 区・自治会活動を行うほか、地域イベントの開催をはじめ、商工業者と連携した地域づくり活動を行う。 ● 地域活動に際し、多様性を尊重した運営と地域づくり活動の実践に努めるとともに、地域に暮らす外国籍住民を受け入れ、みんなで地域を創る。
行 政	● この分野に掲げる各政策・施策を推進する。



政策 13

地理的優位性を活かした 地域経済の活性化を推進する



成果指標	現状値 (令和4年度)	目標値
① 政策の推進度	調査未実施のため現状値なし	中間年度の数値を上回る
② 事業所数	2,370所 (令和3年度)	2,489所
③ 就業者数	10,277人 (令和2年度)	10,791人
④ 認定農業者数	31団体	33団体

※中間年度の数値とは、令和7年度に実施する市民意識調査の値。

現状と課題

- 商工業について、四街道市の人口は増加傾向となっているものの、令和3年の市内事業所数は2,370所と平成24年の2,423所から減少しており、地域経済の活性化が課題となっています。このため、農工商等の連携を促進し、地域資源の有効活用を図るとともに、異業種の技術やアイデアの融合等による相乗効果を生み出す取組を支援することが必要です。また、中心市街地や地域産業全体の活性化による魅力あるまちづくりを進めるためには、地元商店会の活動支援をはじめ、商工会や金融機関などと連携して、中小企業者の経営基盤安定化に向けた支援を推進するほか、地域の賑わいを創出する産業関連イベントへの支援などが必要です。
- 四街道市は、子育て世帯の転入が多く、転入超過の要因のひとつとなっている一方で、人口に占める高齢者の割合が高いという特徴を踏まえ、子育て世帯やシニア世帯がライフステージに応じた多様な働き方を選択できるよう、さらなる雇用機会の創出が重要です。このため、都心や成田空港への交通アクセスが良好な四街道市の特性を活かした企業立地の促進のほか、新たなビジネスを行う事業者への支援や、関係機関と連携した就業・雇用情報の提供、農業とその他の産業の連携による農福連携^{*1}の推進などにより、新たな雇用機会を確保する必要があります。



- 農林業については、梨や苺など多様な農産物が生産されていますが、主食用米の需要量の低下や、農林業従事者の高齢化や後継者不足によって、農林業の維持・継続が課題となっています。このため、経営感覚を備えた担い手の育成や新規就農者への支援に加え、農産物の生産性向上などを図ることで、農林業の振興を推進する必要があります。また、農林業体験などにより、市民等の農林業への興味・関心を深めるとともに、森林保全に関する講座等の実施により、森林を整備する担い手の確保を図る必要があります。

施策 13-1

商工業の振興

施策の展開

- 地域経済を支える商工業のさらなる振興のため、産業の垣根を越えて地域資源を活かした新たな商品開発等を推進します。
- 中心市街地の活性化に向け、空き店舗等の活用を促進するほか、地元商店会の活動や、中小企業者の経営基盤安定化を支援します。
- 地域の賑わいを創出するため、既存イベントのブラッシュアップや新規イベントの創出などを支援します。

主な取組

- 地域資源を活用した新たな商品開発
- 地元商店会への活動支援
- 中小企業者の経営基盤安定化の支援
- 産業関連イベント等の開催支援

地域経済を盛り上げて
楽しいまちに
なるといいな！



施策 13-2

雇用の創出

施策の展開

- 多様化する働き方に応じた雇用機会の創出のため、地元雇用に配慮した企業立地を促進します。
- 商工会等の関係機関と連携した創業・第二創業^{※2}に向けたフォローアップの充実を図ります。
- 就業セミナーの開催や就業に関する情報提供により、ライフステージに応じた働き方の選択を支援します。
- 事業者と連携して、障がいのある人がその特性に応じて農業分野等で活躍できるよう、農福連携^{※1}を推進します。

主な取組

- 企業立地の促進
- 創業の促進・支援
- 就業・雇用の情報提供の充実
- 農福連携の推進

多様な働き方が
認められるまちに



施策 13-3

農林業の振興

施策の展開

- 持続可能な農林業の振興のため、農業の中心的な担い手である認定農業者を支援するとともに、地域の実情に即した地域計画を策定し、農地集約を促進するほか、新規就農者への支援を行います。
- 農産物の生産性向上や主食用米から飼料用米等への転換を支援することで、農林業の効率化・安定化を促進します。
- 朝市や産業まつり、農林業体験など市民が身近に感じられるイベント等を通じて、市民等の農林業への興味・関心の醸成を図ります。
- 農地や農村の有する多面的な機能の維持・発揮を図るため、地域住民等による農地や農業用施設の保全活動を支援します。
- 良好な森林環境を保全するため、森林ボランティア^{※3}を養成し、市民等の森林保全活動を促進するとともに、森林所有者の行う造林や下刈りなどの保全活動への支援を行います。

主な取組

- 認定農業者や新規就農者への支援
- 農産物の生産性の向上
- 市民等の農林業への興味・関心の醸成
- 農地の保全活動への支援
- 市民等の森林保全活動の促進

地産地消で
おいしい四街道の味覚を
子どもたちにも





住まいにスマイル 四街道

36



政策

14

地域の魅力を磨き上げPRする



成果指標	現状値 (令和4年度)	目標値
① 政策の推進度	調査未実施のため現状値なし	中間年度の数値を上回る
② 親子イベント参加者数	新規事業のため現状値なし	550人(累計)
③ プレスリリース数	75件	93件

※中間年度の数値とは、令和7年度に実施する市民意識調査の値。

現状と課題

- 四街道市の魅力あるイベント等として、四街道ふるさとまつりや産業まつりをはじめ、地域に根付いた歴史ある伝統的な祭りなどが開催されていますが、市が実施した若者向けオンラインアンケート調査の結果では、約3割の方が「魅力的な地域資源に欠ける」との回答結果もあります。このため、イベントのさらなる磨き上げや地域資源の積極的な活用に加え、特に子どもの頃の思い出がふるさと意識の醸成につながることから、体験型イベントのパッケージ化など、四街道ならではの誇れる魅力の創出が必要です。また、同じく若者向けオンラインアンケート調査の結果では、6割強の方が「市から転出した場合でも何らかのタイミングで戻ってきたい」との回答結果もあり、進学を機に四街道を離れた学生など、四街道にゆかりがある方に、引き続き、四街道への興味関心や愛着をもってもらえるよう、人と人とのつながりを大切にする「つながる」取組の推進が必要です。
- シティプロモーション^{※1}については、これまで都市の利便性や都心への良好なアクセス、豊かな自然環境などの地域資源を市の強みとしてPRするなどの取組により、人口増加基調を維持しています。今後も、子育て世帯に選ばれるまち・魅力的な地域資源を有するまちとして、魅力の磨き上げを行うとともに、四街道にゆかりのある著名人を「四街道市PR大使^{※2}」として任命し、連携して情報発信を行う取組が必要です。また、PRパンフレットやSNS^{※3}といった広報媒体の活用による戦略的かつ効果的な魅力の発信に加え、職員一人ひとりが魅力の発信者としての意識を高め、全庁を挙げてシティプロモーションを推進し、移住・定住や交流・関係人口の拡大を図ることが必要です。



施策 14-1

魅力の創出

施策の展開

- 四街道ならではの魅力創出のため、子どもも大人も楽しめる親子体験イベントの充実に加え、市内事業者と連携した子どもの未来を応援する事業に取り組みます。
- 幅広い世代が親しんできた伝統的なイベントのさらなる磨き上げを図ります。
- 交流人口の増加に向け、近隣自治体や事業者との連携による地域資源を活用した観光の振興を図ります。
- 市民が四街道への愛着をもつきっかけとなる、新たな地域資源の創出に取り組みます。
- 四街道市を離れて暮らす学生や市を応援してくれる人とのつながりを深めるなど、四街道への関心や愛着の醸成に寄与する取組を推進します。

主な取組

- 親子体験イベント情報の集約・発信
- 子どもの未来を応援する取組の推進
- 伝統的なイベントの磨き上げ
- 観光プログラムの企画・運営の支援
- 新たな地域資源の創出
- 四街道市への関心や愛着を醸成する取組の推進

新たな魅力で、みなさんに
今よりもっと四街道を好き
になってもらいたいです



施策 14-2

魅力の発信

施策の展開

- 四街道市のさまざまな魅力を市内外へ発信し、市の認知度を高めるため、市にゆかりのある著名人を「四街道市PR大使^{※2}」として任命し、市の情報発信のさらなる向上を図ります。
- 四街道市の誇る魅力ある地域資源を活用して、映画やドラマの撮影地としての誘致を行い、市のPRやイメージアップを図ります。
- PRパンフレットやSNS^{※3}などの広報媒体による効果的な情報発信に加え、市の残したい風景を記録・発信することで、関係人口の増加を図るとともに、四街道への愛着の醸成を図ります。
- シティプロモーション^{※1}のターゲット層・ターゲットエリアへの戦略的な情報発信について、全庁を挙げて推進します。

主な取組

- PR大使と連携した魅力の発信
- フィルムコミッション^{※4}の推進
- 広報媒体の充実・活用
- シティプロモーションの推進

四街道の魅力を
全国へ届けることで
活気あるまちにしたいです





政策

15

みんなで創るまちづくりを推進する



成果指標	現状値 (令和4年度)	目標値
① 政策の推進度	調査未実施のため現状値なし	中間年度の数値を上回る
② 「コラボ四街道」による協働事業件数	18件（累計）	40件（累計）
③ ふるさとまつり参加団体数	22団体	56団体
④ 男女の地位は現在において平等になっていると思う市民の割合	女性9.1% 男性20.9% (令和2年度)	女性25.0% 男性35.0%

※中間年度の数値とは、令和7年度に実施する市民意識調査の値。

現状と課題

- 四街道市では、市民と行政が協力して地域課題に取り組むための仕組みを整え、みんなで地域づくりセンター^{*1}を中心に、地域課題の解決に取り組む市民活動団体等のサポートを行っています。今後も身近な暮らしの課題について、地域が主体的に解決していくため、未来を担う若い世代などさまざまな地域づくりの担い手の発掘に取り組むとともに、市民団体が自主的に取り組む特色ある地域活動を行う必要があります。
- 地域コミュニティについては、高齢化や核家族化の進行とともに、地域における人と人とのつながりが希薄化しており、地域で共に支え合うことの重要性が再認識されています。市内各地では、区・自治会を中心として、お祭りなどの地域イベントが開催されていますが、自治会をはじめ、行政や関係機関と連携・協力して、人と人との支え合う関係づくりを行う必要があります。
- 地域共生については、社会的環境の変化が進む中、価値観やライフスタイルの多様化が一層進んでおり、年齢や性別などにかかわらず、みんなが活躍できる地域社会の実現が重要となっています。このため、年齢・性別・国籍・障がいの有無にかかわらず、あらゆる市民等が活躍できる場を創出し、活力やイノベーションを生み出すきっかけになるよう、ダイバーシティ^{*2}を推進する必要があります。また、外国籍住民が増加傾向となっていることを踏まえ、お互いの文化的ちがいを認め合い、地域で共に生きていく多文化共生を推進するほか、豊かな国際性を育む環境づくりや外国籍住民の生活面などでの支援が必要です。
- 四街道市は、「核兵器廃絶平和都市宣言^{*3}」を昭和58年に行い、平和の大切さの周知啓発に努めてきたところであり、今後も、市民の平和意識高揚に向け、取組を継続することが必要です。



施策 15-1

みんなで地域づくりの推進

施策の展開

- みんなで地域づくりセンター^{※1}を中核とし、市民等が主体となって行う地域課題解決に向けた地域づくりの総合的な支援を行います。
- 市民活動団体からの地域課題の解決につながる事業提案のもと、市民団体が自主的に、または市と協力して魅力ある地域づくりを実践します。

主な取組

- 市民等の地域づくりの活動支援
- みんなで地域づくりセンターの運営
- みんなで地域づくり事業提案制度の活用促進

人とのつながりが
より良い地域づくりに
つながる



施策 15-2

コミュニティ活動基盤の整備

施策の展開

- お互いを支え合う共助の視点から重要な役割を担う区・自治会について、市民の理解や加入の促進を図ります。
- 地域におけるコミュニティ活動の活性化に向け、市民自治組織への支援を行います。
- 市民同士がふれあう郷土の祭りとして、四街道ふるさとまつりを開催し、市民のふるさと意識の高揚を図ります。

主な取組

- 地域コミュニティへの理解促進
- 市民自治組織の運営支援
- 四街道ふるさとまつりの開催

地域のつながりを
お祭りで再確認！



施策 15-3

ダイバーシティの推進

施策の展開

- だれもが個人として尊重され、個性を発揮できる社会に向けて、性別役割分担意識^{※4}や無意識の思い込みにとらわれない地域社会の構築のため、男女共同参画を推進します。
- 暴力を許さない市民意識の醸成、非常時にも機能する相談支援体制の充実、相談窓口の周知徹底により、暴力を容認しない環境づくりを推進します。
- 国籍や言語、文化が異なる人々が地域社会の一員として、みんなとともに支え合いながら自分らしく暮らしていけるよう、多文化共生推進計画を策定し、市民の多文化共生社会への理解の促進を図ります。
- 国際交流協会^{※5}と連携し、市民が異なる文化への理解と認識を深め、国際感覚を養うための取組として、姉妹都市リバモアとの交流事業を実施します。
- 世界共通の願いである恒久平和の実現に向け、市民の平和に対する意識の醸成を図ります。

主な取組

- 男女共同参画の推進
- DV防止と被害者支援
- 多文化へのさらなる理解の促進
- 姉妹都市リバモアとの交流促進
- 世界平和を祈念する取組の推進

多様性とは認め合うこと
みんなが自分らしく
笑顔で暮らしたいね

